表－7.1.1(2)　重要な植物種の移植方法の検討結果（その2）

種名	確認箇所		生活様式等	繁殖様式		生育環境	移植方法						現況及び移植地の環境状況		移植による撹乱などの影響
	障害灯の改変部	空港施設予定地		胞子又は花粉の移動様式	種子の散布様式		採取・繁殖方法	播種、移植等の実例の有無	使用機材	運搬方法	手法	実験	移植株数	移植地の環境状況及び配慮事項	
ｶﾞﾗﾝﾋﾞﾈﾑﾁｬ（ﾏﾒ科）		●	草本類・地上性・多年草	動物媒 風媒	重力散布 動物散布	原野等の風衝地	種子採種(秋～春)	実例無し。同属のカワラケツメイは栽培実例有り。	直播き、またはプランター等で育苗後に定植。		植穴に植え込み水を与え、乾燥及び土壌流亡を防ぐため枯葉等でマルチング。改変前に改変区域内の株から種子採取。	実例がないため実験が必要。カワラケツメイの実例を参考にする。	ゴルフ場内のトベラ群落、湿性草本植生(休耕田湿地、低茎草本)や放牧地、路傍・休耕地植生(低茎草本)の石灰岩の露岩が多い風衝地に点在。	本種は海岸の断崖上や原野の風衝地など、風が強く、高茎植物の生育が押さえられるような所に生育する。 改変区域内で採取した種子を、近隣の類似環境であるチガヤ群落等の牧草地、路傍・休耕地植生、空港施設ターミナル地区及び盛土法面に播種する。 移植地と同一植生のチガヤ群落等の牧草地、路傍・休耕地植生(低茎草本)も草本層の高さは1m前後と低く、植被率はほぼ100％である。移植地のチガヤ群落も同様であると考えられるが、本種は低茎植物が繁茂した環境を好むことから生育環境として適していると考える。 空港施設ターミナル地区及び盛土法面の緑化の際は、チガヤ等の低茎植物を植栽し、類似環境を創出した後に播種することから、生育環境として適していると考える。	改変区域内で採取した種子を近隣のゴルフ場残地内の放牧地、路傍・休耕地植生(低茎草本)、緑化後の空港施設ターミナル地区及び盛土法面へ播種することから、撹乱などの影響はないものと考える。
ｸｻﾐｽﾞｷ（ｸﾛﾀｷｶｽﾞﾗ科）	●	●	木本類（低木～高木）	動物媒 風媒	重力散布 動物散布	林内	低木(1m以下)は掘取り(余分な枝や幹は切り落とす) 中木(1～3m)、高木(3m以上)は根回し後掘取り(余分な枝や幹は切り落とす)	栽培利用、移植実例有り	スコップ、クワ等による根掘り。人力作業。	根鉢を新聞紙、藁等で包み、人力あるいは機械で搬出。	植穴に植え込み水極め(根鉢と現地盤の隙間をなくす)後、乾燥防止にマルチング、根動きや倒木を防ぐため支柱設置。なお、種子採取による栽培・移植については株移植を補完する目的で、必要に応じて行うものとする。	実例を参考にする。	空港施設予定地のゴルフ場内のオオバギ-ゲッキツ群落内に14株。 航空障害灯予定地であるカタフタ山、水岳、ﾀｷ山東のリュウキュウマツ群落内に13株。	本種は海岸林内あるいは二次林内に生育する高さ5m程度の常緑小高木である。 空港施設予定地の株は同種が生育する近隣の類似環境であるオオバギ-ゲッキツ群落に移植する。移植地と同一植生のオオバギ-ゲッキツ群落の植生調査結果は、低木層(高さ3～5m)の植被率20～90％、草本層(高さ1～1.6m)の植被率20～80％となっており、低木層と草本層の植被率が高くなっている所がある。移植地のオオバギ-ゲッキツ群落も同様であると考えられるが、移植株数が少なく、生長しても5m程度であること、植被率が低い所を選ぶことにより移植スペースを確保できると考える。移植地は現況で生育が確認された植生と同じであり、スペースも確保できることから、生育環境として適していると考える。 航空障害灯予定地については可能な限り改変を避けるものとするが、やむを得ない場合は直近に移植する。移植地は植生調査を行ったリュウキュウマツ群落近辺などであり、亜高木層(高さ7m)の植被率が50～60％、低木層(高さ2.5～3m)の植被率は30～40％、草本層(0.8m)の植被率は10％と低いことから、十分な移植スペースを確保できると考える。また、直近に移植することから、土壌条件などは現況とほぼ同一であり、生育環境として適していると考える。	空港施設予定地の株については近隣のオオバギ-ゲッキツ群落に移植する。移植地は2箇所あり、西側の移植地には同種が生育している。株数も少なく、また距離が近いことと繁殖様式から撹乱などの影響はないものと考える。 航空障害灯予定地については、やむを得ない場合は直近に移植する。直近に移植することから撹乱などの影響はないものと考える。
							種子採種(夏～秋)	実例有り。	直播き、またはプランター等で育苗後に定植。						